

Mycetophagus irroratus Reitter, 1879

ISSN 2185-9787

さやばね

ニューシリーズ

No. 15 September 2014

日本甲虫学会

SAYABANE N. S.
The Coleopterological Society of Japan

日本産ベニボタルの同定マニュアル, VIII

松田 潔

〒 599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科昆虫学研究室

Identification manual of the lycid-beetles in Japan, VIII

Kiyoshi MATSUDA

前回、ベニボタル亜科のカクムネベニボタル族の解説を行ったので、今回はツヤバネベニボタル族と本族に所属するツヤバネベニボタル属および日本産ツヤバネベニボタル属 2 種の解説を行う。

ツヤバネベニボタル族

Calochromini Lacordaire, 1857

体は小型から大型まで属や種によって異なる。頭部は前頭部に口吻をもつものと欠くものに分かれる。複眼は小さいものから大きいものまでさまざまである。触角は 11 節からなり、長く、雌雄ともに糸状か鋸歯状、まれに雄で扇状。前胸背板は四角形か台形、中央に 1 本の縦溝をそなえ、側縁部に 1 対の横隆起をもつ。上翅はほぼ平行状か、後方に向けて広がり、背面は弱い縦隆線をそなえ、隆線間は細かいか、または、粗い点刻で密に被われるが、通常は点刻列をもたない。雄交尾器は円筒状で、側片は幅広く、二葉状、ペニスとほぼ同長。基片は比較的大きく、非対称。雌交尾器は細長い。尾毛は短く、先端で丸くなる。半腹板は基部で幅広く、中央から先端までは幅が狭く、先端で丸くなる。肛側板は非常に長い。

旧北区、新北区、エチオピア区、東洋区、新熱帯区、オーストラリア区に分布する。

本族はこれまでベニボタル科の 1 亜科とされてきたが (Kazantsev, 2005 ; Bocáková & Bocák, 2007)、現在は DNA 解析の結果と成虫と幼虫の形態の比較

からベニボタル亜科の 1 族として分類されている (Bocák & Bocáková, 2008)。

ツヤバネベニボタル属 *Calochromus* Guérin-Ménéville, 1833

タイプ種 : *Calochromus glaucopterus* Guérin-Ménéville, 1833 (ニューギニア)。

[成虫] 体は小型から大型まで種によって異なる。前頭部に口吻を欠く。複眼は小さい。触角は長く、雌雄ともに糸状か鋸歯状。前胸背板は四角形か台形、前縁は多少とも前方に向けて丸く張り出し、中央に 1 本の縦溝をそなえ、側縁部に 1 対の横隆起をもつ。上翅はほぼ平行状か、後方に向けて少し広がり、弱い縦隆線をそなえ、隆線間は細かいか、または、粗い点刻で密に被われるが、通常は点刻列をもたない。雌の第 8 腹板は基部中央に 1 本の長い針状突起をもつ。雄交尾器は円筒状で、側片は幅広く、二葉状、ペニスとほぼ同長。基片は比較的大きく、非対称。

[幼虫] 体は円筒形。眼は小さい。触角は 2 節からなり、末端節は幅広く、ドーム状。大あごは細長く、弓状に曲がり、先端に向けてしだいに狭まる。胸部背板はそれぞれ中央に 1 本縦の細長い膜状部をもつ。前胸腹板は幅広く、前方に伸長する。第 9 腹節は 1 対の尾突起をもつ。脚は短い。

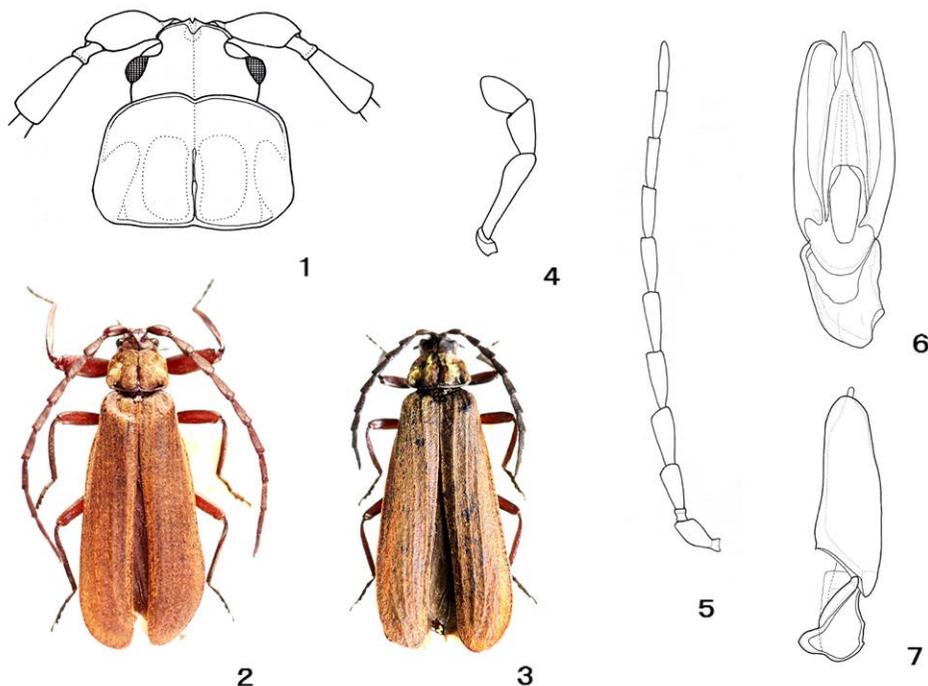


図1-7. オオツヤバネベニボタルの頭部と前胸背板(1), 背面図 (2, ♂; 3, ♀), 小あごひげ (4), 触角 (5), 雄交尾器 (6, 腹面; 7, 側面)。

基節は管状で、短い。爪は鉤状 (Bocák & Matsuda, 2003)。

旧北区, 新北区, 東洋区, オーストラリア区に分布し, これまでに 195 種が記録され, 日本からは次の 2 種が知られている。

日本産ツヤバネベニボタル属 *Calochromus* の種の検索表

- 1(2) 体は大型。前胸背板の側方隆起縁は狭い。上翅は後方に向けて少し広がる。雄では前腿節は幅広く、壮強であり、先端1/2の下面に数個の歯状突起をもつ。11.2-17.3 mm。北海道・本州中部以北。..... オオツヤバネベニボタル *Calochromus nagaii* Nakane
- 2(1) 体は小型から中型。前胸背板は幅広い隆起縁をもつ。上翅は両側縁がほぼ平行。雄の前腿節は中・後腿節とほぼ同じ太さで、先端1/2の下面に歯状突起を欠く。6.5-10.2 mm。本州・四国・九州・屋久島。..... ツヤバネベニボタル *Calochromus rubrovestitus* Nakane et K. Ohbayashi

1. オオツヤバネベニボタル *Calochromus nagaii* Nakane, 1961 (図1-7)

11.2-17.3 mm。体は黒色か暗赤褐色で、光沢がある。体下面・前頭を除く頭部・小楯板・触角・脚は赤褐色の短毛でやや密に被われる。前胸背板は黄色味を帯びた赤色の短毛で密に被われる。上翅は黒褐色か暗赤褐色、赤色の微毛で密に被われる。頭部は後部 1/3 が前胸背板の下に隠れ、前頭は強く、丸く前方に張り出し、中央に 1 本の縦溝と触角挿入部後方から頭頂に至る Y 字形の強い膨隆部をもつ。複眼は小さく、雄の複眼間の距離は複眼長径の約 3.0 倍、雌では約 2.2 倍。触角は非常に長く、雄で翅端 1/4 に届き、雌雄ともに糸状で、平圧される。上唇は小さく、二葉状、先端部で弱く内側に湾入する。小あごひげ末端節は斧形、長さは幅の約 1.9 倍。下唇ひげ末端節は斧形、長さは幅の約 2.2 倍。前胸背板は台形、長さは基部の幅の約 0.6 倍、幅は頭部の幅の約 1.4 倍。前縁は弱く、丸く前方に張り出し、中央で三角状に凹む。前角はやや角張り、両側縁は基部に向けて弱く広がり、後角は幅広く丸くなる。背面は隆起し、前角と後角

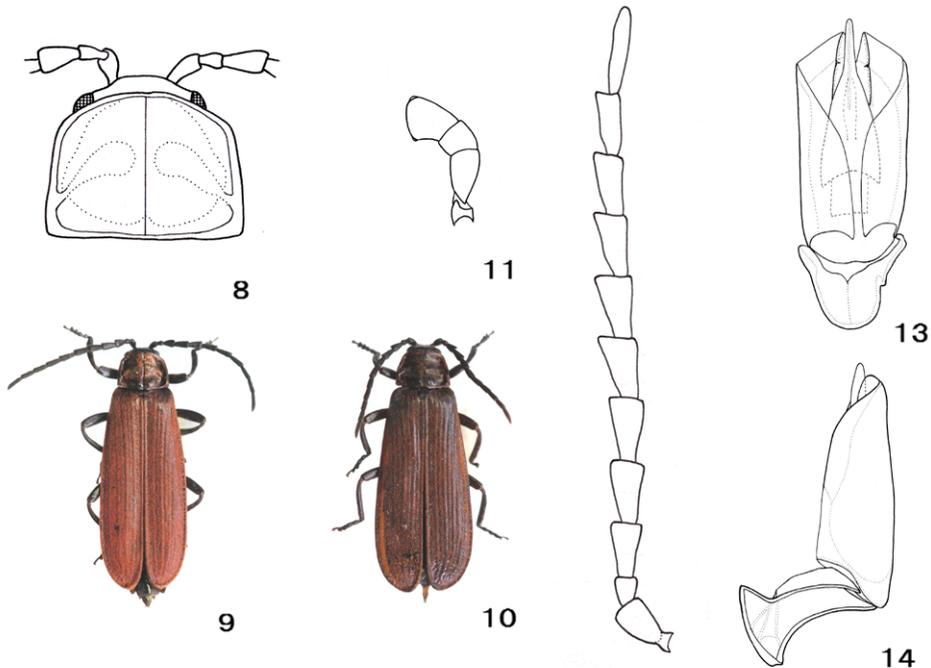


図8-14. ツヤバネベニボタルの頭部と前胸背板 (8), 背面図 (9, ♂; 10, ♀), 小あごひげ (11), 触角 (12), 雄交尾器 (13, 腹面; 14, 側面)。

の内側で深く凹み，基部 1/2 に 1 本の深く，細い縦溝をもち，また，この両側に 1 対の幅広い隆起部と，側縁部にあと 1 対の幅広い側方横隆起をそなえ，表面は細かく，密に点刻される。小楯板は二葉状，先端部中央で浅く湾入する。上翅は長く，後方に向けて少し広がる。長さは幅の約 3.3 倍。上翅はそれぞれ 9 本の縦隆線をそなえるが，第 1 と第 9 縦隆線は微弱である。隆線間は粗く，密に点刻される。雄の第 8 腹板は先端で幅広く，丸く湾入する。脚は長く，雄の前脚は幅広く，壮強であり，先端部 1/2 の下面に数個の歯状突起をもつ。後脛節は細長く，平行状。跗節の爪は単純。雄交尾器は幅広く，ペニスは基部 1/3 で幅広く，先端 2/3 で徐々に狭まる。側片は円筒状で，幅広く，ペニスよりわずかに短い。基片は比較的大きく，非対称。7-8 月に出現する。分布：北海道・本州中部以北。

2. ツヤバネベニボタル *Calochromus rubrovestitus* Nakane et K. Ohbayashi, 1955 (図8-14)

6.5-11.7 mm. 体は黒色か黒褐色で，光沢がある。体下面は赤味を帯びた黄褐色の短毛でやや密に被

われる。頭部・触角・小楯板・脚は暗赤褐色の短毛でやや密に被われる。前胸背板と上翅は赤色の短毛で密に被われる。頭部は後部 1/3 が前胸背板の下に隠れ，前頭を除き，細かく，密に点刻される。前頭は短く，前方に弱く張り出し，中央でわずかに凹む。複眼は小さく，雄の複眼間の距離は複眼長径の約 1.8 倍，雌では約 2.1 倍。触角は長く，雄で上翅中央に届き，雌雄ともに鋸歯状。上唇は短く，舌状。小あごひげ末端節は斧形，長さは幅の約 1.7 倍。下唇ひげ末端節は三角形，長さは幅の約 1.2 倍。前胸背板は台形，幅広い隆起縁で囲まれ，長さは基部の幅の約 0.7 倍，幅は頭部の幅の約 1.4-1.6 倍。前縁はほぼ直線状。前角と後角はやや角張り，両側縁は基部に向けて弱く広がる。背面は滑らかで，隆起し，側縁の内側で深く凹み，中央に 1 本の長い縦溝をもち，また，両側に 1 対の幅広い側方横隆起をそなえ，表面は細かく，密に点刻される。小楯板は二葉状，先端部中央で弱く湾入する。上翅は長く，側方がほぼ平行で，後方に向けてわずかに広がる。長さは幅の約 3.0-3.2 倍。上翅はそれぞれ 9 本の縦隆線をそなえるが，第 1 と第 3・第 9 縦隆線は微弱である。隆線間は少し皺状を呈し，

粗く、密に点刻される。雄の第8腹板は先端で幅広く、三角状に湾入する。脚は中位の長さで、腿節はやや太く、後脛節は細長い。附節の爪は単純。雄交尾器は幅広く、ペニスは基部1/3で幅広く、先端2/3で徐々に狭まる。側片は円筒状で、幅広く、ペニスよりわずかに短い。基片は大きく、非対称。5-8月に出現する。分布：本州・四国・九州・屋久島。

末筆ながら、本稿をまとめるにあたり、貴重な標本の協力をいただいた逗子市の露木繁雄氏、津市の秋田勝己氏、宇治市の水野弘造氏、大阪市の有本久之氏と西宮市の田中勇氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Bocák, L. & M. Bocáková, 1990. Revision of the supergeneric classification of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera). *Polskie Pismo Entomologiczne*, 59: 623-676.
- Bocák, L. & M. Bocáková, 2008. Phylogeny and classification of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera). *Annales Zoologici*, 58: 695-720.
- Bocák, L. & K. Matsuda, 2003. Review of immature stages of the family Lycidae (Insecta: Coleoptera). *Journal of Natural History*, 37: 1463-1507.
- Bocáková, M., 1992. Revision of the genus *Calochromus* Guérin-Ménéville (Coleoptera, Lycidae) from New Guinea and adjacent islands. *Acta Entomologica Bohemoslovaca*, 89: 301-308.
- Bocáková, M., & L. Bocák, 2007. Lycidae, In *Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, Vol. 4, Elateroidea-Derodontoidea-Bostrichoidea-Lymexyloidea-Clerioidea-Cucujoidea, edited by I. Löbl & A. Smetana, Apollo Books, Stenstrup: 935 pp.
- Guérin-Ménéville, F. E., 1833. *Memoire sur deux nouveaux genres de l'ordre des coléoptères, et description des espèces qui les composent*. *Annales de la Société Entomologique de France*, 2: 155-160.
- Kazantsev, S. V., 2005. Morphology of Lycidae with some considerations on evolution of the Coleoptera. *Elytron*, 17: 73-248.
- Kleine, R., 1933. *Lycidae, Coleopterorum Catalogus*, edited by S. Schenkling, Pars 128, W. Junk, Berlin. 145 pp.
- Kleine, R., 1941. Bestimmungstabelle der Gattung *Calochromus* Guér. (Col.). *Stettiner Entomologische Zeitung*, 102: 206-241.
- Nakane, T., 1961. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XV. *Fragmenta Coleopterologica*, 1: 1-5.
- Nakane, T., 1969a. *Lycidae (Insecta, Coleoptera)*, *Fauna Japonica*, Academic Press of Japan, Tokyo. 224 pp.
- Nakane, T., 1969b. New species of Lycidae from Formosa, with notes on some known species (Insecta: Coleoptera). *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo*, 12: 9-16.
- Nakane, T. & K. Ohbayashi, 1955. Description of a new species of the genus *Calochromus* from Japan. *Akitu*, 4: 29-30.
- 佐藤正孝・松田 潔, 1985. ペニボタル科, 「原色日本甲虫図鑑 III」, 保育社: 92-107, 109.
- Waterhouse, C. O., 1877. Monograph of the genus *Calochromus* of the family Lycidae. *Cistula Entomologica*, 2: 195-202.
- Waterhouse, C. O., 1879. *Lycidae, Illustration of typical specimens of Coleoptera in the collection of the British Museum, Part I*, London. 83 pp.

(2014年8月20日受領, 2014年8月30日受理)

【短報】沖縄島で採集されたシロスジカミキリ

南西諸島におけるシロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat の記録はこれまで奄美大島と徳之島からしかなかった(大林・新里, 2007)。今回、筆者らは(独)農業環境技術研究所(以下、農環研)・昆虫標本館の所蔵標本の中から沖縄島産の本種を見出したのでここに報告をする。データは下記の通りである。

1♂, Urasaki, Motobu-chô, Okinawa-hontô, 24. IV. 1986, S. Yoshimatsu leg. (農環研所蔵昆虫標本番号 24-0478727; Figs. 1, 2).

採集者は蛾の研究者である吉松慎一博士(農環研)である。本人の話では、採った時の状況は憶えていないとのことであったが、灯火採集の可能性が高いと思われる。上翅の紋も黄色で、新鮮な個体であることがうかがえる。シロスジカミキリのような大型種が沖縄島から記録されていなかったことを考えると、これは偶産である可能性が高い。本部港は奄美大島・徳之島経由のフェリーの寄港地であるので、この方面からの侵入個体ではないかと考えられる。奄美大島では5、6月によく



Figs. 1, 2. A male specimen of *Batocera lineolata* collected from Motobu, Okinawajima Is., the Ryukyus, Japan. 1, Dorsal habitus. 2, Lateral habitus.

採集され、徳之島の発生はそれよりも若干早くて4月下旬から5月ということなので(大坪, 2008),